

2016/10/6

名 称	支え合うきよせ委員会 第1回勉強会報告		
主 催	支え合うきよせ委員会		
開催日時	平成 28 年 10 月 5 日(水)	14:00～16:00	開催場所
	清瀬けやきホール		
参加者 (どんな人・年齢・人数等)	別紙アンケートに記載 講師を含め、計 28 名の方が参加。		
趣旨・目的	①関心のあるテーマのワークに参加し、自身のおもいを参加者のみなさんと共有する ②勉強会の運営について、一つの方法としてさわやか福祉財団の手法を学ぶ		

内 容
<p>フォーラムでは、基調講演や GW を通して地域で支え合うことの重要性を明らかにすることで、市民の関心を高め、新たな支え合いの担い手を発掘することを大きな目的として実施した。支え合いに関心を持ち、フォーラムに参加して下さった方々を具体的な活動につなげていくことができればと考え、この勉強会を企画した。</p> <p>1. 参加者情報 別紙「第一回勉強会 アンケート結果」に記載</p> <p>3. 勉強会の運営について ・進行はさわやか福祉財団の鶴山さんに依頼。 ・はじめに、「助け合い活動創出ブック」を使用し、すべての支え合いに共通する基本的事項を学習する。 ・特に、「居場所づくり」と「有償ボランティア」については、実践に基づいた事例の紹介あり。 ・当日打ち合わせにて、「居場所づくり」と「有償ボランティア」にグループ分けしないこととなる。</p> <p>4. 参加者の感想 別紙「第一回勉強会 アンケート結果」に記載</p> <p>5. 委員ふりかえり(まとめ) ・先生の話聞くだけでなく、自分のおもいを吐き出す時間もあつたのがよかった。 ・勉強会の参加者のおもいを聞き、個別に何かの活動に紹介することもあるが、次回以降どのように勉強会を企画するかについては検討が必要 ・自分自身にとっての勉強会となった。 ・協議体としての勉強会だったが、協議体としてはほとんど検討がされず、準備不足。 ・少しずつだが協議体の活動は動き出している。今日参加していただいた方の熱を下げないためにテンポを下げないようにしたい。 ・参加者の発言などから、活動をしている・していないを含めてレベルの違いを感じた。話の内容・テーマ設定など、配慮をした方が効果的。アンケート結果を次回以降につなげていくべき。 ・協議体を進める上では、何を考え、進めていかなくてはいけないのか戦略を立てる必要がある。そうした話を協議体ですべき。 ・第二層の協議体設立に向けてミニフォーラムの開催などをしていくことも有効。勉強会自体にはそれほど金がかからないが、必要であれば財団で補助をすることも可能。</p>